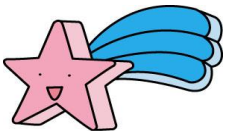
第 353 号　　生徒さん・ご家庭・先生をむすぶ新聞



とらいあんぐる

2021 年４月

一音会ミュージックスクール発行

「ほんとうのこと」

あまり思い出したくない思い出話をします。思い出すたびに、苦いものが胸いっぱいに広がります。後悔と懺悔の気持ちです。

そういう思い出したくないことこそ、思い出すべき事柄なのだと思います。

新年度のスタートにふさわしい、思い出なのかもしれません。

通信教育で絶対音感のおけいこをしている生徒さん、Ａくんとの間でおこったエピソードです。

通信には、私が直接、指導をさせていただいている生徒さんが多くいらっしゃいますが、Ａくんはその一人です。

生涯、忘れられない一人になるでしょう。

Ａくんは、絶対音感のおけいこが嫌いでした。非協力的、といったものではなく、ものすごく嫌いでした。

おけいこをはじめようとした時、Ａくんはすでに４歳になっていました。確かに、はやくないスタートです。

お母さまは、最初から焦っていました。「間に合うでしょうか？」と。

私はいいました。

「お母さまの焦りや不安が、おけいこにかげをおとします。お母さまがご不安に思っていることは、どうかお子さまに気づかれないようにしてください。楽しくおけいこするのがベストです。お子さまに、お気持ちを楽に、楽しく、おけいこに取り組んでもらえるように、お母さまも楽しい雰囲気を演出してくださいね」

ですが、Ａくんは最初から徹底しておけいこが大嫌いでした。おけいこがはじまると、逃げます。もしくは泣いてしまいます。

おけいこは、なかなか軌道に乗りません。

ごくたまに、機嫌が良い時は、黙ってそこにいてくれるのですが、ハタをさわることはありません。無理に握らせようとすると、ものすごく怒ります。

音をきいているかどうか、まったく分かりません。「アカ」とは絶対、口に出してくれません。

そんな調子でした。

お母さまは１日５回を守ろうと、がんばってくださっていましたが、５回が５回とも、おけいこが成立しない状態でした。

「赤」だけでは、おけいこの意味が分かりにくいだろうと、形にならないまま「黄色」を増やしました。本当は良くないことでしたが、「赤」だけのおけいこがすでに２か月以上におよび、おけいこはあきらかに行きづまっていたのです。

「赤」と「黄色」になっても、おけいこは変わりませんでした。

私は逐一、お母さまと相談をし、おけいこが楽しくなりそうなアイデアを次々、試していただきました。

赤と黄色のボールを床にバラまき、音が鳴ったら拾って箱に入れるゲーム。

壁に赤い画用紙と黄色い画用紙を貼り、音が鳴ったら走っていって、壁にタッチするゲーム。

赤いロープと黄色いロープで、床に丸を作り、音が鳴ったらお池の中にジャンプして飛び込むゲーム。

試みたおけいこは、他にもたくさんたくさん、あります。

しかしＡくんは、遊びの要素を取り入れたおけいこにも、興味を示してくれませんでした。１回だけやって、あとはまったく見向きもしない、といった調子でした。

他の部屋に逃げていってしまうのを、お母さまが追いかけて、引きずってきて戻す、というのが日課になってきていました。

ゲームを何種類も試した頃から、お母さまの疲れが目立つようになってきました。

無理もありません。せっかく準備したおけいこグッズが、次々、無駄になっていくのですから。

また、抵抗が強い時は、お母さまがあきらめるまで、Ａくんは泣き叫び続けるのです。「分かった分かった、もういいから」と、お母さまが折れると、ピタリと叫ぶのをやめます。お母さまの神経がもたなくなってきていました。

私も、ここまでおけいこ嫌いの子は、過去に例がなく、「さすがにこれは･･･」と思うようになっていました。

おけいこスタートから１年以上たっています。

ある時、私は電話で「もうやめませんか？これだけ嫌がるのは、よほどのことです」と、いってしまいました。

私も、ひどく疲れていたのだと思います。私以上に疲れていたお母さまも、「そうしようかしら・・・」。

でもお母さまと私とで、あれこれ話

をしていると、お互い、少し気がまぎれ、不思議なもので、お互い、「もうちょっとだけ、がんばってみよう」という気持ちになってしまうのです。

この「もうやめましょう」と電話で相談し、「もうちょっとだけがんばろう」になったことは、実は何度もありました。何度も何度も、「もうちょっとだけ」を繰り返し、気づけばまた月日が経っていました。

Ａくんのおけいこは、「赤」と「黄色」のまま。そして、おけいこらしい形になるのは、１週間に１回あるかないか、でした。

お母さまが和音を弾いても、Ａくんはおけいことは関係ないことをしています。おけいこに向かわせようとすると、激しく泣き叫びます。あげく他の部屋に逃げては、お母さまに連れ戻されます。

おけいこが形にならないまま、どんどん月日が流れることに、お母さまだけでなく、私も強い焦りをおぼえるようになっていきました。

間に合わないかもしれない！

Ａくんのデッドラインは、おけいこの初期のうちに、算出していました。Ａくん自身の特徴と発達のスピードから、「このあたりにおけいこのデッドラインが来ます」と、はやい時点でお母さまに伝えていました。

「あと何年何か月」と、ずっとカウントダウンしてきたのです。その数字が小さくなるにつれ、当然、焦ります。お母さまも非常に焦っていました。

でもＡくんだけは、関係なく、おけいこ拒否を貫いていました。

とうとうデッドラインをまたぐ時になっても、おけいこは形にならないままでした。和音は「赤」と「黄色」です。

そればかりかＡくんは、成長にともない、抵抗の仕方も巧みになり、お母さまがなだめすかしても、一切、効果がなくなっていました。

力ずくで部屋に連れ戻すのも、身体

が大きくなっているため、難しくなってきていました。

おけいこさえできれば、どんどん吸収できる子なのに、そのおけいこをやってくれない、ということで、私ができることは、すでになくなっていました。

とうとう、イヤな電話をしなくてはならなくなります。

「これが最後の電話になってしまうかもしれない」

そう思うだけで、絶望的な気持ちになりました。

勇気を出して、受話器をとり、コールします。

お母さまは、優しい声でした。

「そろそろ先生からお電話をいただけるのではないかと思っていました。覚悟はできています」

私は、一息にいいました。

「残念ながら、デッドラインが来ました。どんなに楽観的に考えても、もう間に合いません」

私は力不足をお詫びしました。

もっともっと言葉を重ねなくてはならないと分かっているのに、なかなか言葉が出ませんでした。

私の目からは、涙があふれて止まらなくなっていました。

悔しさと申し訳なさ、です。

声を出せば、声がふるえて、私が泣いていることが伝わってしまうのではないかと思い、緊張しました。

でも実は、その必要はありませんでした。

お母さまは、はっきりと嗚咽していらっしゃったからです。

「先生、何年も親身になってご指導

くださり、ありがとうございました。親として、おけいこを形にすらできず、お恥ずかしい思いばかりです。親が未熟なせいです。でも何年にもわたって、何度も何度も、先生と直接お話しをさせていただいたことは、私の宝物になりました。お察しかと思いますが、Ａはこのおけいこにかぎらず、気難しい子どもです。この数年、本当にたいへんなことの連続でした。親のいう通りにならず、なだめても叱っても、いうことをきいてくれません。私は他人様の前でＡをたたいたこともあります。心が折れそうになることも、しょっちゅうでした。でもそんな時、江口先生の言葉のいくつかを思い出し、私は気持ちを立てなおすことができました。残念ながら、絶対音感を手に入れることはできませんでしたが、それ以上のものをいただいたと思っています」

気づけば、私も嗚咽していました。

ここまででも、じゅうぶんに思い出すのが苦しい思い出です。

ですが、この話には続きがあります。

「後日、こんなことがありました」というＡくんのお母さまからのお手紙に、私は卒倒するのではないかと思うほどのショックを受けるのです。

お母さまがＡくんに、おけいこを終了すると伝えると、Ａくんは不思議そうに「なぜ？」と、きいたそうです。

もう終わりにすると決めたことを告げると、Ａくんは「終わりになんてしない！勝手に決めるな！」と、猛然と怒りだしたそうです。

「そうはいっても、終わりにしなければならないのよ」というお母さまに対して、

「いやだ、続けたい。やめない、絶対、やめない！」。

そこではじめてお母さまは、このおけいこは年齢が高くなるとできなくなること、そしてＡくんはその年齢をこえてしまったことを伝えたそうです。

それをきいたＡくんは、ひどく驚き、次にうろたえ、最後は号泣します。

「なんで・・・なんで、大きくなったらできなくなるって、ボクに教えてくれなかったの？　教えてくれたら、ちゃんとおけいこしたのに！！なんで教えてくれなかったの？！ねえ、なんで教えてくれなかったの？！」

この反応は、お母さまも予想外で、たいへん驚かれたそうです。

私は、驚きなんていうものではありませんでした。頭をなぐられたような衝撃でした。

お母さまとは、年齢的なデッドラインについて、何度も何度も話をし、何年も前から決めたデッドラインについて、「あと何年何か月」と、細かくカウントダウンしてきたのです。

ですが、おけいこの当事者であるＡくんに、そのことを一度として、伝えたことがありませんでした！

一度も！

伝えるという発想がありませんでした。

私は間違っていました。

今、おけいこをしないと間に合わなくなることを、当事者であるＡくんにこそ、率直に伝えるべきだったのです。

Ａくんにもお母さまにも、お詫びのしようがありません。

おけいこスタート時、「間に合わないのではないか」と不安になるお母さまに、「親が不安になると、おけいこを急き立ててしまって苦しくなるので、親の不安をお子さまに伝えないで」とお願いしたことを強く後悔しました。

おそらくお母さまは、私の助言を忠実に守って、いつも優しくおけいこに誘ってくださっていたのです。

思い出している今も、頭を抱えたくなります。

やりきれなさに、大声を出したくなります。

私はＡくんとお母さまに対する償いとして、このエピソードを定期的に思い出しています。

そして、今、接している生徒さんやおうちの方には、心を鬼にして、本当

のことをいうようにしています。

「このペースですと間に合いません」

「現在、デッドラインまで、１年を切っています。来年の今は、和音を覚えられません」

「おけいこ回数を増やせないのであれば、今すぐ、おけいこをおやめください。時間とお月謝のムダです」

おけいこに協力的ではないお子さまの場合には、こうもいいます。

「このままだと間に合わないことを、お子さまにもお伝えください」

第二のＡくんを作らないためです。

おとなは、子どもを子ども扱いして、時に当事者である子どもに、重要な事実を伝えないままにしてしまいます。

「子どもにいっても分からない」

「子どもを追いつめたら、かわいそう」

私も、どこかそう思っていたのです。

だからＡくんに、本当のことを伝えてあげなかったのです。

そんなのは優しさでも何でもなかった。

今は、そう思います。

そもそも、「子どもだから、いってもどうせ分からない」と考えてしまうことこそ、子どもをバカにしています。

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と、ただ安心させることも、子ども用の説明も、子どもに対して優しくありません。

子どもは成長します。

分からなかったことも、どんどん分かるようになっていきます。

新年度を迎え、ご家族の皆さまは、１年前とは別人のようになったお子さまを、今、目にしているはずです。

今年度は、昨年度とは違う子であると思って接してください。

これは、絶対音感のおけいこに限らず、です。

「何でも分かる」と思って、どうか子どもたちに、“ほんとうのこと”を教えてあげてください。　（江口　彩子）

◆新年度のレッスンがスタートしました

新年度がスタートしました。昨年度は、コロナのせいで、４月を休校とせざるを得ませんでした。年度のはじめという大事な時期ですのに、思い切り、出鼻をくじかれました。それにくらべ、今年度は、無事にスタートを切ることができました。それだけでも、たいへんありがたいことであると感じます。

皆さまに新年度希望表をご提出いただき、作成いたしました新時間割が、無事、稼働しています。新時間割作成の際には、お時間やコースについて、たびたびご相談、ご連絡をさせていただきましたが、多くの方が、お忙しい中、折り返しご連絡をくださり、ご家族の皆さまのご協力に、深く感謝しているところです。本当にありがとうございました。

さて、新しい時間割がスタートしています。新しい生活スケジュールは、いかがでしょうか。新時間割は、できる限り、皆さまのご希望にそってお組みしたつもりですが、新生活がスタートしてみると、生活のタイムスケジュールが予想と違うことも、しばしばです。レッスン曜日・時間等の変更は、なるべく早く、本部にお電話ください【本部：03-5966-7711（担当・伊藤、矢島）】。

ただし、年度がわりの変更と同様、曜日や時間帯を変更される場合、原則として担当も変わってしまいますので、その点はどうかご了承ください。

生徒さんが新しいスケジュールにはやく慣れていただけますよう、スタッフ一同、心を尽くします。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

◆年間スケジュールをお配りしています

年間スケジュールが完成しました。この「とらいあんぐる」と同時にお配りしています。

今年最大の行事である「ピアノ発表会」は、８月６日（金）・７日（土）・８日（日）・９日（月）の４日間です。

場所は、一音会が過去、もっとも多く使ってきた「成増アクトホール」です。「成増アクトホール」は、東武東上線成増駅の駅前に位置し、東京メトロ有楽町線成増駅にも近く、たいへんアクセスの良いホールです。

「ピアノ発表会」は、原則、全員参加です。４日間、開催していますので、ご都合の良い日を決め、ご予定をあけておいてください。ご協力をよろしくお願いいたします。

この春、ピアノをおはじめになった生徒さんも、十分、間に合います。毎年、４月に入会した生徒さんも、夏の発表会で活躍してくださっています。

コロナ感染拡大防止に細心の注意を払い、安全な開催をお約束します。最高の舞台になりますよう、スタッフ一同、全力で指導にあたらせていただきます。

「ピアノ発表会」のくわしいご案内は、追ってお配りいたします。ご不明の点は、本部までお気軽にご質問ください【本部：03-5966-7711（担当・谷口）】。

その他のイベント日程に関しましても、スケジュール表でご確認ください。

←成増アクトホール

◆「第１５回ジュニア・コンサート」を開催します

「ジュニコン・オーディション」の結果、選抜された生徒さんによる「ジュニア・コンサート」を、４月２７日（火）19:00 より、「ゆめりあホール」で開催いたします。

出演する生徒さんと曲名は、教室内ポスターでお知らせしています。お一人でも多くの方に、ぜひ足をお運びいただきたいと思います。チケットは、「ショパンはうす受付」で販売しています（小学生以上前売りチケット 1000 円・当日 1500 円、未就学児前売りチケット 500 円・当日 800 円）。

コロナのことが気になる方もいらっしゃると思いますが、「ゆめりあホール」は広く、例年、１０席に１席くらいしか埋まっていません。密を避けた開催ができると確信します。もちろん、感染防止対策はきっちりおこないます。安心してお越しください。

←ゆめりあホール

◆「ドクターP」と「おうちP」

すでにご存じの方も多いことですが、絶対音感のおけいこ（以下、ハタのおけいこ）は、おうちで毎日おこなっていただくおけいこです。通常は、レッスンと同様、ピア

ノで和音を弾いて出題し、お子さまに答えていただきます。

ハタのおけいこをパソコンやタブレットでおこなうこともできます。出題する手間も記録する手間もなく、お忙しいおうちの方にご活用いただいています。

これを「P システム」と呼んでいます。「P システム」は、１年ほど前にシステム改良をおこない、iPad を含むすべてのタブレットでおけいこしていただけるようになりました。タブレットですと、手でタッチして答えられるので、小さなお子さまでも一人でおけいこできます。

「P システム」では、おうちの方の見守りのもと、２歳の生徒さんが、一人でおけいこしているケースもあります。

年度のはじめですので、「P システム」について、簡単にご説明させていただきたいと思います。「P システム」には、大きく２つのコースがございます。

「ドクターP」

すべてのおけいこ記録を、指導スタッフが拝見します。記録は、「送信」をクリックしていただくだけですので、集計やプリントアウトも不要です。

月に２回、おけいこピースを更新するとともに、アドバイスの形で、指導をさせていただきます。

通信教育の形です。教室に足をお運びいただく必要はありません。

主に、①おうちが遠方で、教室にお通いになれない方、②レッスンが月１回の方、③希望のお時間にハタのレッスンをお組みできない方が、ご受講になっています。海外の方も多く受講しています。

お月謝は、おけいこの段階によって異なります。くわしくは、資料をご請求ください。

「おうち P」

教室でハタのレッスンを受けている方のみ、ご受講いただけます。

おうちでのおけいこに、「P システム」を利用する形です

おけいこ記録は、プリントアウトするか、記録紙に転記して、レッスンの際、お持ちいただく必要があります。

「おうち P」の利用料は、月額 2,200 円です。何回おけいこしても、定額です。

現在、教室にお通いの生徒さんで、「P システム」をお使いの方は、以下の３パターンのどれかをお選びになっています。

A：対面ハタ＋「おうち P」

教室でハタのレッスンを受け、おうちでのおけいこは「P システム」を使います。

B：対面ハタ＋「ドクターP」

教室でのハタのレッスンが月１回の方は、この形でご受講いただきます。

月１回の指導では、絶対音感習得が難しいからです。教室で、ハタのレッスンを受けつつ、「ドクターP」の指導により、おけいこを進めます。おうちでのおけいこは「P システム」を使います。

C：「ドクターP」のみ

教室で、ピアノやリトミック等を受け、ハタのおけいこだけ「ドクターP」にします。対面式のハタのレッスンは受けません。

記録のプリントアウト等の手間がない、教室での滞在時間を短くできる、といったメリットがあります。

実は現在、「ドクターP」は、多くの方にご希望をいただき、満員となっています。

指導のレベルを下げないようにするため、定員以上の生徒さんを受け入れることをしておりません。

「ドクターP」では、毎月、絶対音感を完成させ、ご卒業になる方がいらっしゃいますので、毎月、欠員は出ます。その都度、新規の方をご案内していますが、それでも

ご予約を入れる方のほうが多く、ウェイティングリストも、かなり長くなってしまいました。外部の方が今からお申し込みになりますと、年内のご案内が難しい状況です。

ただ、教室でレッスンをご受講になっている方は、特別枠として「ドクターP」をご利用いただけます。

「おうちP」には、定員がありません。月の途中からでもおはじめいただけますし、やってみて合わないようでしたら、おやめになることも随時できます。

くわしくは、教室のホームページの「ドクターP」のページをごらんいただけますと、おけいこのサンプルページもあり、感じがつかめるかと思います。一度、おけいこにご利用予定のタブレットで、おけいこのサンプルページをお試しになってみることをおすすめします。

おうちの方にご負担にならない形で、ハタのおけいこをお続けいただけますよう、願っています。何でもお気軽にご相談ください。

＊＊＊

＊スクールの生徒さんのご質問を、以下の２つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp　　電　話：03-3954-9999

＊お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後７時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

＊ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お１人10分を目安とさせていただいています。ご了承ください。